九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# [007]九州人類学会報表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2231610

出版情報：九州人類学会報. 7, 1980-03-31. Kyushu Anthropological Association
バージョン：
権利関係：

# 序

去年の総会で、綾部会長が筑波大学に去ったあと、私が会長をお引き受けすることが決まった。ただ就任にあたって、私は人類学者ではないこと、それに５５年４月には、大学が定年になることを、みなさんにお伝えしておいた。ところが就任して間もなく、私は病に倒れて、そのまま今日に至っており、内藤会長はまったくの虚名におわってしまった。やむをえない事情とはいっても、運営委員や事務局の方々をはじめ、会員のみなさんに、深くお詫びを申しあげなくてはならない。

九人研の前身である「人類学研究会」が活動を開始したのはもうかなり以前のことであったと思う。現在の九人研が発足したのは４７年のことであった。すなわち７月の結成準備会を経て、９月１６日には再出発の総会が九大同窓会館で開かれた。私事にわたるけれども、このとき私は、国分直一氏の前座をつとめて、記念講演（末子相続の族制的文脈－比較民族学的論考－）をさせていただいたことを記憶している。ただし本誌の創刊は、翌４８年になってのことであった。

九人研は、もともと＜開かれた＞研究会であった。それは文化・形質人類を中核としながらも、民俗学・社会学・法社会学・宗教学・宗教史・言語学・考古学等、隣接諸科学を含むものであった。このことは例会の題目、本誌各号の諸報告にもみられるとおりである。それは＜anthropology＞の研究会というよりは、＜science of man＞の研究会の姿を呈しているが、私はそれでよいと思う。この方面の研究者は、九州の場合、かならずしも多いということはできない。それに専門を生かしつつも、学際的研究を進める機運は、ますます強まってきた。いや学際的研究などと開き直らなくてもよい。違った専門の方のお話をうかがうのは、まことに楽しいものである。企画にあたる方々のご苦労は、お察し申し上げるけれども、私はこれまでの方向をプロモートすることを期待している。

昭和５５年３月

九州人類学研究会会長

**内　藤　莞　爾**